



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

於
22/1
28

東方先生

五葉

繪本通俗三國志三編卷之八

目錄

孔明計燒新野城

玄德敗走江陵

長坂坡趙雲救幼主

繪本通俗三國志三編卷之八

孔明燒新野城

宋忠馬そうちゅうひよやさやさく。宛城わんじゆに到り。曹操さうばう見あへ。降泰こうたいの書しょを
ななまなのなまない。曹さう操ばう大だい喜きび。劉りゅう琮きよと忠烈ちゆうれつ矣い。封しゆうづ。衣
服いふく鞍あん馬まをななまない。ああぐく荆けい州しゆの主しゆとあるべし。國くには入
べ。ああぐす城じゆを出でそむくよといふ。宋忠そうちゅうをうへゆきし。宋忠
拜謝ひやくしゃしてくへり。とどごよ江えをわくうへゆきるよ向むかす。一手いっしの人
馬まをせ来る。宋忠避さきべき途とあく近ちかあるとままで見みよ。關羽かんぎよ真
先さきよきとこ來きる。宋忠色いろを変かど。相あいも入いる氣色けいしよくあつ々あつあつ。關
羽かんぎよぐぐくたが。林問はや。宋忠うくとひりゆく。劉表りゅうひょうをとどご
逝去しこよなまへ。劉琮りゅうきよを立たてく。國くにの主しゆとく。いま曹操さうばううひうよときてく。

降泰の書を獻す。某より使あつといひよ。關羽丈よ驚き。宋忠とどくへや新野より。その趣きを訥る。玄徳まひ。あき。涙をあげて。昏絶しなす。張飛もと出事させよ。あひとえど。がく。宋忠が首を刎。そのち兵を起して。荆刀を攻取。劉琮を討殺。とまと。びりがだりと。玄徳の曰く。汝をだりよりありあれ。とよりよるやく相計らんと。剣を抜く。宋忠。汝が首を刎。汝が企あらば。汝あらぞやくあらせざる。いまよ。汝が首を刎。汝が首をもよ。汝が怒。汝が解。汝をやく回り。とじ。汝を。宋忠が曰く。そらく城外の人よ。そらく。玄徳乃。曰く。いよ。汝が首をもよ。あへく。もよ。命を背す。あうと。士卒を。宋忠頭を刲へ。鼠のとく。去よ。玄徳が。憂ひ悶々を。

へと居こまふ。忽ち江夏の劉琦より使ゆ。伊籍と。者きなき。うといひま。玄徳ひし。の好をあゆひ。陛と下と。堂上。ヨ。精ド。前日の恩を謝。と。伊籍が曰く。頃日劉表を。世を辞へ。蔡夫人。蔡瑁。ホト計をあわせ。深く慮。と。變。や報せを。あのあらへんを遣へ。實否をきる。しるよ。と。て。劉琮と。國主とも。も。君のあへき。ひがる。あるふと。某を。使と。も。哀書を。たてま。り。と。玄徳ひし。と。その書を曰く。

孤子劉琦謹獻哀書。上達す。叔父大人座前。近聞。先君薨于荆。父。繼母與蔡瑁。張允二人。商謀不即。報。寢。矯立弟劉琮。爲九郡之主。大亂。綱常。實難容。

恩。伏望王叔父垂憐。益起麾下之精兵。約會同滅。亞心黨。共東先君之基業。實為萬幸。溢血拜書。立

待批回。時建安十三年。

玄德見。而以伊籍。而曰。御刃方。劉琮。國主。而
り。なる。の。と。あ。は。い。と。伊。籍。大。よ。ぞ。ろ。ひ。て。白。く。あ。ら。ば。君。あ。ん。ぎ。
く。ま。と。古。ゆ。ひ。な。と。伊。籍。大。よ。ぞ。ろ。ひ。て。白。く。あ。ら。ば。君。あ。ん。ぎ。
や。喪。と。弔。と。号。と。襄。陽。と。到。り。劉。琮。と。わ。ざ。と。い。て。擒。と。お
と。ぐ。悪。黨。と。討。と。が。る。孔。明。と。伊。籍。が。言。某。が。く。同。下。君
と。や。く。も。と。よ。志。と。ぐ。ひ。た。玄。德。涙。と。あ。づ。と。曰。劉。表。危。と。臨
ん。ど。孤。子。と。よ。き。と。よ。れ。と。よ。き。と。信。と。背。ひ。と。ま。け。を。圍。と。奪。
死。と。九。泉。の。下。と。あ。ん。の。面。目。あ。つ。と。劉。表。と。見。と。孔。明。

自。く。い。ま。東。の。と。が。た。今。曹。操。が。兵。と。ど。死。戒。と。き。と。ま。う。先。手
の。勢。と。間。近。く。寄。る。い。が。と。拒。む。と。玄。德。の。自。と。う。ド。樊。城。と。
い。と。避。と。と。相。戦。と。不。と。早。馬。急。と。告。と。曹。操。と。と。博
望。坡。ま。で。攻。來。と。や。り。と。ま。れ。伊。籍。と。回。と。軍。馬。と。整
の。孔。明。と。計。と。問。と。孔。明。と。白。く。御。心。と。そ。き。と。ド。之。某。先。日。の
軍。と。火。と。あ。と。夏。侯。惇。と。破。り。若。干。の。敵。と。と。お。せ。う。と。よ。曹
操。と。い。く。來。る。某。ひ。と。の。計。あ。つ。と。あ。と。す。膽。と。利。と。せ。つ。と。四
門。と。榜。と。半。と。あ。の。石。の。百。姓。老。少。男。女。と。あ。と。と。奉。と。と。
難。と。避。と。曹。操。來。ら。と。あ。と。と。盈。と。殺。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
し。孫。乾。と。西。河。の。岸。と。舟。と。と。沒。と。百姓。と。わ。と。麻。弊。と。百姓
と。引。と。樊。城。と。入。と。關。羽。と。千。余。騎。と。引。と。白。河。の。上。と。埋。伏

布の囊々沙を盛り。その流を塞止。明日夜の三更す後河下より入馬をさし。叫び嘶き。走き。あち曹擇敗軍とあり。そのうちまじよ塞止する水と。あぐて水をたぐて攻東り。そのひがみ。まあ計と受く。半夕。はだよ張飛を召び。御辺に千余騎と。白河の渡口を埋伏し。曹操勢破。とぐく浅きもすりわたり去べ。とめど一度よ討と。出関羽と一手よあつて。とらひり。張飛兵と引く出より。ほどよ趙雲と召び。御辺に三千の兵と引く。乾りる柴芦茅と用意し。新野の城近き屋の上にほを置く。硫黄焰硝とそだ。明日はとあつ。卯日雞直日あれ。晚方すり大風吹く。大風とあらば曹操が勢力ある。城中よへて休ひべ。

そのと先御辺の三千余騎と四手よ分西北南の三門よ。その五百騎づと遣りて。火鎗鉄炮火矢の類と投掛火をくま焼あがる。と城外よく喊の声とあげ東の門をうそ残して。うそと兵を伏あ。敵あり。乱ど。とぐく東の門す。半とそのやれ。後す。討と。蒐ば。敵一度も回をりて得た。さへどよ走え。よき寡と。ゆく。衆よ敵を。計あり。うあうをと。ゆく功あらん。夜の明。よし。關羽張飛と出ゆ。その時とそあり。あく。そらく樊城へ。べと。とらひり。よ趙雲計と。受けよ。より。よぎよ。糜芳劉封二人がま。御辺に一千余騎を率て。千騎は紅の旗をま。又千騎は青き旗をさせ。新野と去り三十里よ。鵲尾坂といふ名あり。あの不



えもせじうへじまの二色の旗とへまどへそ陣と前は敵の勢
來りあべ糜芳へ紅の旗をさしる。千余騎と左よそあくま
劉封へ青き旗をさしる。千余騎と右よそあくま。整てとく
ひうあべ敵のふうなぐと。まうようあくま進よど。そのとだ四方
みわよまく谷際は伏新野は火の起るをとべ討とく生く敵を
破り。そくちゑやく白河は来るべーとらひひまび。一人計とうけ
て止よたり。孔明手分をとどめとりくま。玄徳ともよ高き山
のおり。軍のゆうと見物をきて曹操へ宛城をあく。曹
仁曹洪を大将と。十萬の勢を先陣と。新野城をむう
けし。許褚へ折衝將軍とあく。三千余騎の精兵を率。
鐵の甲と。一色とほまと。先陣すつきをとみ午の刻

よ鶴尾坡えゆく。案内者をやく。あきう。新野まで道程を
あざうむと問を。三十里あくとあく。許褚すあく。夜十騎を遣
し。行先をうきへし。そろすの回り。まよすりきて山は依嶺を江
と敵陣を取り。青き旗。紅の旗と打混て。勢のう少しとあうち
かヒヤ。許褚を取れ。三千余騎を引く。一奇を打向へ。劉封
麻芳二色の旗を。きいと。西方へ引分隊伍をみどとす。整てと
諸将問く曰く。あくへよ蒐りゆく。許褚が白く行先をあく
を伏兵もあく。汝はまよとすりて動ひ。あく。まよ二人引く
て。先手の大将をあく。馬をえく。曹仁を見へ
て。敵のさむひたと告り。曹仁曰く。古より兵法。有虚有實の

論をきくする。あも敵を疑ひしる計あり。あんの伏兵をあうべそ
や兵をもとめよといひにせり。許褚又鶴尾坡よりへり。兵を下知
しと攻くる。敵一人も入らず。とたゞ日も西山よりたれど。山
の頂に大擂を吹声大よきあへる。あやしくも見ゆ。望む
ようだらうある山の絶頂。二羣の旗が立。両方とも蓋とうたゞ
けく。左は玄徳。右は孔明。二人相對して酒を飲。悠然と
して居候。許褚大よ怒り。憎き奴原を体あとぞ。な
ちよ攻上う。とともに屏風を立てる。崖の上す。大
本大石や雨の降どく。根落す。許褚兵を損失り。よくての
おどき。あひる。ひひとひあく。喊のあえひだり。途
をもとらく討向ん。とどく。日と暮く。方角をわなを曹

仁は大軍を引いてせ來り。なに一擧に新野城を攻取。今夜
あはぐ息をもたら。落行敵を明日追ふ。と。あらぐ四方
の門より推へり。きどり。推ぐ敵入る。曹洪曰く。ま
へりうさぎ計。窮モ勢ひ盡く。百姓を引連。夜よびがまと
進こうとせぢゆる。あひる。夜のあへ一宿。と。夜あけあ
きう。追蒐へと。城内も入らず。休り。と。兵糧とはよ。夜も
あ食ふ。臨も。城中も。入らず。と。また。と。兵糧とはよ。夜も
え。初更の比も。だり。と。れ。太風。俄々吹起。と。番のもの
ども火焼。土うと告来る。曹仁とよしもさへ。と。定
く。諸軍卒の飯を炊と。風吹。油断。と。手詠仕事
か。あう。躁づく。と。あ。帷幕の内も休み居ります。

追て人來り。西北南の三方。じごく火ともすと報ど。俄々城中鳥の沸がとくひからだり。曹仁。曹洪。騰。や。甲よ刀よと馬よのりたる。もや四方八面火よあり。紅天を焦す。火の中烟の中もひど。逃路へ何ぞとく走りまぐらう。東の門へ火あへと呼び。よまよまと十万の火軍。ひしの門。さう生ひ。推あへわざと。たがひ手足を踏抗され。よそそものき死むるや。幾千万ともあせび。さきども曹仁。宗徒のものへ悉あく逃れ。ひくまく走り。勿むち喊てはぬ。趙雲一軍と引く。追討させ。曹仁幸た命と逃延する。又鼓を打く。糜芳。一軍。路をまぎる。引色んぞ様ひ。曹仁志も討且。まくまく走る。

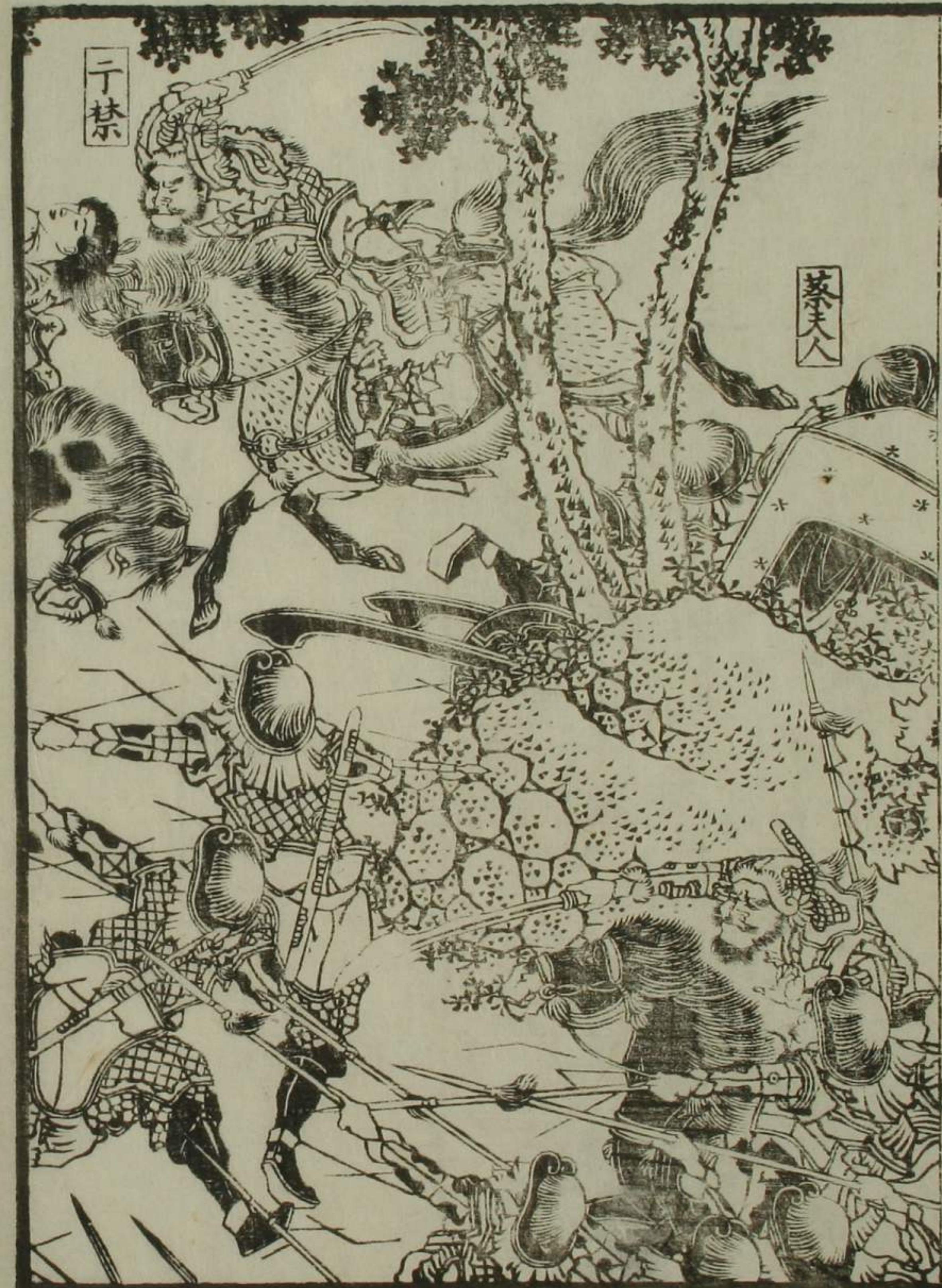
又劉封。一軍。たるまく討く坐。さんぐ。菟立。夜の四更。いなぐ。人も疲。馬も弱りて。まぐら。残る兵。ふ。頭。火集。額。が爛。うち。たる。ものあ。水。や。白河の辺。よ。をあうそ。よ。水。と飲。馬。水。と乱。行。と。また。よ。鳴。やす。だく。関羽。う。孫。河上。居。新野。火。あ。のち。らく時。刻。あり。と侍。る。河下。入馬。を。び。と。さ。ぎ。く。を。を。と。時。分。よ。とり。の。あ。ど。そ。あ。と。一度。よ。塞。止。る。水。と切。あ。と。と。水。勢。大。よ。と。曹仁。が。人。馬。溺。と死。る。や。の。ね。と。あ。す。その内。曹仁。水。あ。きた。ふ。た。げ。孫。河。と。と。と。博陵の渡。よ。近く。不。よ。勿。む。ち。喊。と。め。げ。と。一。彪。の。敵。軍。路。と。耳。切。真。先。ふ。と。と。大。將。の。張。飛。あり。雷。の。落。と。と。と。と。曹

仁が勢を追取蘇あよきと様なりりき。血あよきと白泉の
じく屍よもたれ。麻ヤシがせ。大將曹仁ひきどみ危
くらへる。許褚一人とて入とく。張飛と鎗をせ。十合第
ありゆく路をうがみて逃去ぬ。張飛兵を收め。玄徳孔明
と一手あり。江をあとづく來り。劉封麻芳舟をろ
へて待居なり。諸軍とぐぐ渡り。孔明との舟を燒益
し。たゞちよ樊城へゆく。

玄徳敗走江陵

曹仁曹洪辛き命を逃ぎ。新野城の焼跡を陣を取。曹洪
一人宛城へ行。敗軍の手を告り。曹操大々怒り。諸葛亮
夫。あよとくある。とて大軍を以て一者。新野へ推寄

野よ禍山よ漫く陣を取。手を分。一手は山路を進。手は白河
を填めて樊城を踏破。とぐく打ちけり。とたよ劉璡
とく。へ亟相えども。ものも來りゆふ。百姓のふく寝處。
民のふ寝とひ。小勢あり。も守りべし。今玄徳新野の民を
樊城より移し置。味方の大軍一度よ蒐ふ。新野は樊城も
粉々あう。かくの百姓を殺へ。亟相あき。もまふ。玄徳た
とひ降す。かくの百姓をあき。ひやと。人をあき
く徳を感せ。一方玄徳降り。荆及戦。金。御手
えへ。そのち荆襄の兵を起へ。吳の孫權を破りた
まう。天下一統あり。曹操曰く。おの計大々好。とまく



のくろ使とせん劉曄が曰く。徐庶もとより玄徳と交を有り
くまと。また又命じて。曹操が曰く。徐庶を遣してかへ再びう
えうド。劉曄が曰く。徐庶もとへまことに天下の人々笑矣。全
人をあくも疑ひ遣りて。曹操が曰く。とて徐庶をやうせ
よ。また今まごの罪を免れて。官爵をあつべし。も又ま
よひとぞ。志と云ふを。軍民とも云誅し。王否とも云焚ム
と云常々汝が忠誠あるとある。おのゆく疑ひ。とて遣す。
と云ふと。徐庶命て受て樊城を行。玄徳。孔明。出せ入
ながひよ昔の情で物語りて。徐庶やうへる某をあくよ

きこ
來うし。曹操が奸計。假に民のんと懐んたらありま
ひ。回うす人を万人の笑とあつて。胸をきしむ。某
ひと将軍と。王霸の基業と。因うてせし。まの方すと。内
てあり。今老母死して事益あし。生のあひご人のたちよ
一計も計てあひへど。君いま卧龍。大業の成さるを惠
ゆふ。あいま曹操大軍を八手。分白河を填ふべ攻来る
君をあく避ゆべと。相別とて回り。玄徳。孔明。又
むうのく。いぐまと。とて。問ひ。孔明が曰く。とて。もう樊城と
打葉襄陽。いとて拒ぐ。まますう外。計あし。玄徳
の昌。とくの百姓。とくと志たふく。の不まく。来まく。のうで。
まく。よのびんや。孔明が曰く。人をもて百姓。との由と告

く。またがふとひのきのと利異とく落り。関羽又命と舟をそろ
江と渡さしらん。玄徳をまよひながら。糜竺簡雍又命と百姓
又觸て曹操攻来る。その城とまく襄陽と走る。放火志
たがんとせゆきのひ。とも江を渡まと。告させり人
を樊城新野の百姓老幼とも声をそろへ。もと六命と
うすあるも使君もとがひ行へと。まあ号呼へど來りれ
る。また徐庶へりて曹操又見へ。玄徳降泰をもろげ
きあへと報じる。曹操大怒。即時五万の兵を洗
り下し。白河と填大軍八手又えられて推寄る。新野樊城
の百姓後より敵の蒐そきひで老よると扶け。幼と抱く
男女相交り。江とわたりるが号泣のあへとび下。玄徳舟の

上より。あのあつたまとうとひ。かくの百姓まあまよと慕ひよ。ぐ
る禍やくふむ。まき生と詮あへと。身と投ひとすへりと。左
右の人とそとむ。まきとさく人とあ涙とあがきとひゆうあ。一
玄徳をとよ南の岸と著ゆへり。百姓の後と来まよやの北
の岸と立と。号びぬと。又关羽と遣し渡す。そのち馬とあら
と襄陽城とひのきへ。城の上とひて旗を立鹿塹
まびと結ます。橋と曳と人々入を。玄徳壕の邊と馬と立
賢姪劉琮とまよの石とあらか借と。百姓の命と助人と
ちひと御辺と對して疑ひ。あらす門とひうひゆへとよ
をくす。番のやのどもおの由と報じる。劉琮怡き戦ひ
て起りあひを。蔡瑁張允まあまよひじて。ひそだ矢倉と登

リ射手をそろへてさんぐよ射る。城外の百姓もふ城とのぞぐ
ぐ哭きうあしむる。城中二人の大将校百人をあたへて。蔡
瑁。張允。又射そくりる。その人へ身の長九尺。面へ重束のじく。目へ
朗星のじく。義陽の人。魏延。字文長あり。大音あげて曰く。
劉玄徳。仁義の人あり。汝ホアムと。曹操。又降まる。玄徳
士の為。あめうす。又。今。劉玄徳。城中。又。魏延。字文長あり。大音
と渡し。劉皇叔。そくへり。とよそく。魏延。字文長あり。大音
と。銃せんと。刀をよこして。番のものも。切散し。門をひら。橋
と渡し。劉皇叔。そくへり。とよそく。魏延。馬を打て
ひくと。玄徳。まう。と。百姓を駆。する。あめいひ。又
バ。張飛。敵の矢を射る。そく。つの中大。又。怒り。襄陽を踏む
がく。うん。といぢげども。玄徳。許。し。か。ね。を。齒咬をあく。そく。人

う。浩氣。城中。一人の大將。馬を飛。と。魏延。が。う。汝。名もあ
き下將。ある。あ。と。舌を動。と。上を犯せ。と。呼。鎗
と。ひ。縦。の。て。突。と。薦。る。その人。身の長八尺。面白。雄偉。南陽
宛城の人。文聘。字は仲業。荆。又の大將。あり。兩方の兵。入
乱。と。戦。ひ。城中。鳥の拂。が。と。矢。叫。び。の。ま。天地。と。動。す。
玄徳。さ。の。体。と。見。と。ま。も。と。民。と。安。ん。ぜ。ん。と。あ。や。と。う。
り。て。民。と。害。と。襄陽。へ。と。ぞ。ぞ。と。人の。を。孔明。が。白。く。江陵。乃
城。荆。又の。要害。録。糧の。用意。き。ら。そ。と。ひ。の。城。と
取。が。襄陽。又。勝。る。べ。し。玄徳。あ。う。べ。と。と。百姓。と。ひ。き。連。江
陵。と。さ。と。く。落。ゆ。し。襄陽。の。百姓。も。日。東。玄徳。の。恩。と。懷。き。
さ。の。騒。動。よ。ざ。と。城。と。生。と。逃。去。や。の。ね。と。あ。う。す。城。中。又

ハ魏延と文聘と已の刺すり未の刺まで戦ひ手下の兵と
ぐく討死ト。魏延たゞ一騎よりつゝまづ城を出走りる
て。蔡瑁張允逃さどと追與よう。魏延ハ玄徳の行未驚
きづくまづ遂ニ長沙郡ニ落と太守韓玄を頼み。玄
徳ハ百姓を引導へ大小の車輶千輶肩を擔ひ背
み負へ陸續とて来るやのとびと途のうとひと劉表が
墓ありとまづ玄徳がうまきと祭り不才の辱弟徳あ
仁あくと寄托の重きをもとまき已ゆを得ざるやあ
兄は英魂あづ。荆襄の民をもとへ甚め力を副と曹操
をあつけりと渡ふむせんぐらひのを三軍を感動と
たゞ後陣より報じ。曹操まで樊城に入り舟をもと人

く江を渡さ。道をもとらゆと告げ。孔明をあづ。玄徳
やく。江陵の城へ究竟の要害あり。もとまきと得へた。曹操
を拒ぐ。あづとも十万又あず百姓を引く。甲を著する者
をまく。あく一日よ十余里の途を行く。うくのとく。んが何との日
う。江陵をもとゆと得ん。も敵を追付きあがいと戰
べき志。がく百姓をもとく。道をもとぞ。大とす。令人もまきと飯す。あ
大事と清え。もあづ人をもと本とす。今人もまきと飯す。あ
よそいとあきと棄ふと宣へ。きく人を感涙をあらし。う。
孔明が曰く。追手の兵遠らず。关羽を江夏の城へ遣へ。と
劉琦も援を請ひ。玄徳志うととく書簡をとく。关羽
羽孫乾も五百余騎をさへ。江夏を行く急を告。援の兵

と引て江陵さちりゆうを出合であへといひゆ人じんを。關羽くわんよ命めいを受うけて生まつえり。そのうち張飛よしを後陣ごじんとして。趙雲よしのと妻子老少おじやうを守護しゆごす。十余万の百姓せいしを引具ひきぐ。一日より行ゆ千里。あすりと打うちて江陵さちりゆうをさして落おちゆ。さて襄陽城さちようじゆうを文聘ぶんへい。魏延ゐのぶが戰たたかひ死しす。至るの数万人屍しかばねの壘るいにて。屠やく所の肉にくを異異いろいろある。その時曹操さうばうを大軍だいぐんとせし。劉琮りゅうそうを召めして對面たいめんせしと。使しを遣しへまし。劉琮りゅうそう怕ひて行ゆをもれせし。蔡瑁さいめい、張允よしゆん二人のふたりの行人こうにんと請うけたまひを。劉琮りゅうそうをあやし。文聘ぶんへいをへて遣しへり。と先さきは王威おうゐとゆきのひそりと告げす。曹操さうばうは將軍しょうぐんを辭さるむ。玄德げんとくと走はしひよすりん。をきこきこで備そなへし。孫そんがく將軍しょうぐん數千の兵へひととのひ。險阻けんそを據すて討うめ。曹操さうばうを

うとううとう破はれは。曹さう操ばうを破はりあは威ゐ。天あま下げを震ふるひ。中原ちゆうげんを虎とら視し。と。廣ひろと。よども檄文げきぶんを馳はく定じむべ。おき遇まつがなきの時とき。失うふべくまことにひま。劉琮りゅうそうの由ゆて。蔡瑁さいめいを説さる。蔡瑁さいめい大だい怒いかり。王威おうゐ天あま命めい順じゆ逆ぎやくの理りをあらき。あふと無用むようの舌したを動うごかす。王威おうゐ声こゑをあげ。國くにを賣賣まの賊ぞく。汝なが肉にくを生うあ。汝なが啖くまう。恨うらみしと。罵のりなまび。蔡瑁さいめいを怒いかり。斬ころままと。人ひとをひきり。剥むし。越こひさと。免めんと。蔡瑁さいめい。張允よしゆんと打うちは。孟獲もうご。樊城はんじゆを行ゆく。曹さう操ばうを見みへ地ぢを再拜さいはいし。辭色じしきをあ。孟獲もうごを寵わい侍しあり。曹さう操ばう問くて曰いく。いま荆けい州しゆの軍馬ぐんば錢糧せんりょうの役えり。ちどりある。又。雍よ州しゆ人じんを管領かんりする。蔡瑁さいめいが曰いく。騎兵きへい五万歩卒十五万。水軍すいぐん八万。都合二十八万人。金銀兵糧きんぎんへいりょう

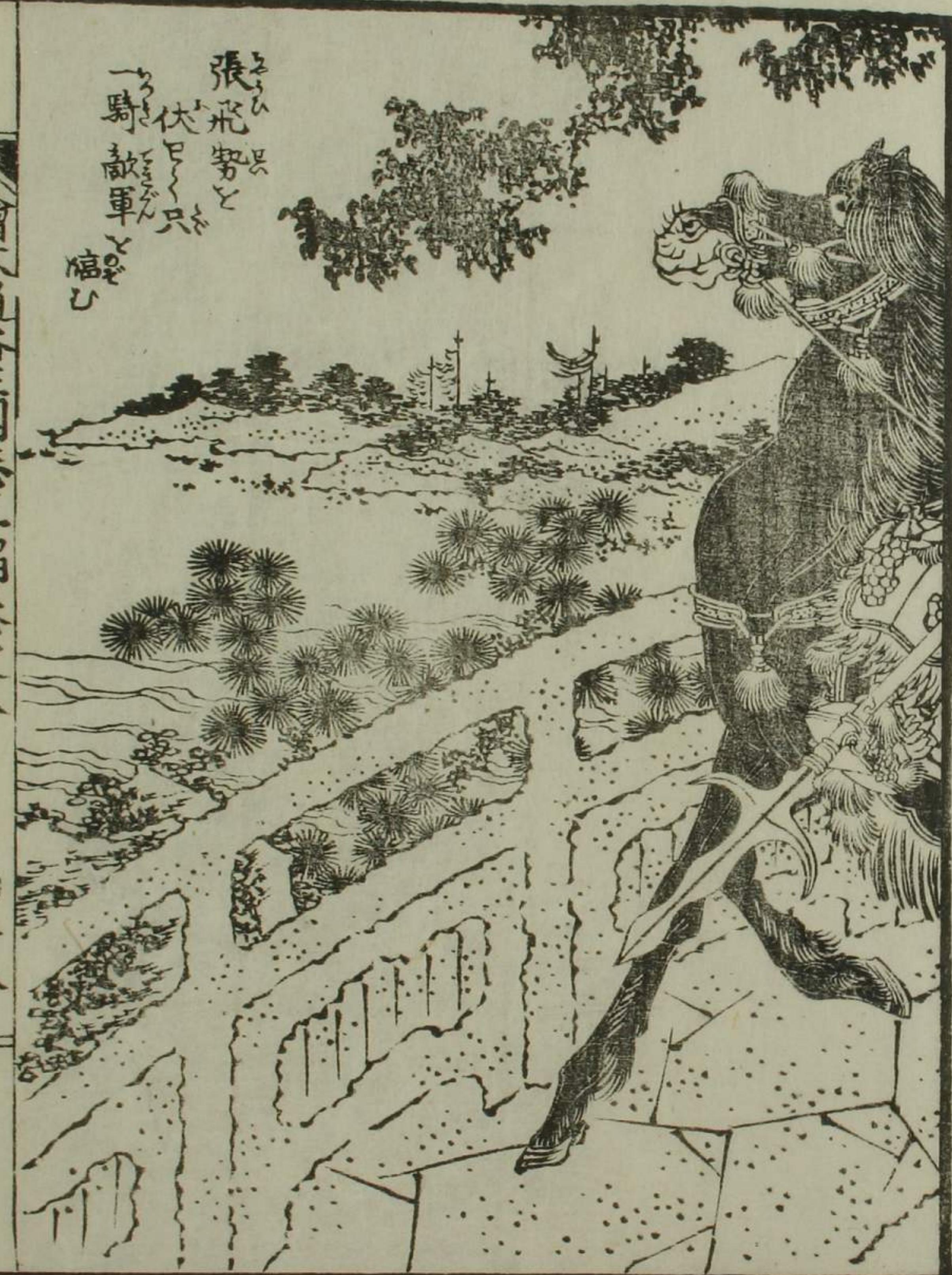
ハ大半江陵城ニ駐トモ。その外各處の城中トモ。一年の兵糧を用意せり。曹操又曰く軍舟トモ。何人を管領トモ。蔡瑁曰く。大小の兵船七千余艘もとより。某ホ二人トモ。管領トモ。曹操をあち。蔡瑁と平南侯水軍大都督と。張允が助順侯水軍副都督とトモ。二人拜トモ。恩を謝トモ。曹操曰く。劉表存命のとれ。常々荆王トモ。人トモ。望トモ。卒トモ。の志トモ。得トモ。その子劉琮トモ。是も降トモ。是もトモ。天子トモ。夫トモ。王位トモ。封トモ。二人喜び去トモ。死トモ。荀攸曰く。曹操キヤク。君トモ。二人をすむ。蔡瑁。張允。もよ。縉トモ。小人トモ。高官トモ。授トモ。水軍の都督トモ。志トモ。曹操トモ。人トモ。き
らんや。まが手下のものトモ。とぐく北國の兵トモ。一人トモ。軍トモ。あるやのあ。いま假トモ。おの二人を用トモ。とへりのちトモ。殊トモ。乍トモ。ひき。荀攸驚トモ。止トモ。蔡瑁。張允。そだ般トモ。劉琮トモ。見トモ。曹操トモ。王位トモ。封トモ。よトモ。執トモ。劉琮トモ。喜び。はだの日。曹操襄陽城トモ。解トモ。劉琮トモ。夫人印綬トモ。齋トモ。兵符トモ。江トモ。渡トモ。相迎トモ。道トモ。又拜狀トモ。曹操トモ。なトモ。あトモ。と。よトモ。城中トモ。入トモ。蔡瑁。張允襄陽の百姓トモ。引县トモ。香華トモ。具トモ。上トモ。文武トモ。官人トモ。下トモ。再拜トモ。曹操トモ。繩トモ。越トモ。よび寄トモ。我荆トモ。及トモ。得トモ。喜トモ。汝トモ。得トモ。喜トモ。守樊城トモ。封トモ。丞相トモ。様トモ。以下トモ。立人トモ。列トモ。

ト。王粲傳巽と関内侯又封ト。劉琮と青兎の刺史封ト。早く旅行の用意をあつて、青兎へ行へとひよ。劉琮卒。傍だ某官爵の望あした。孫策はもとの國又留りて。父母の故國を守なくひと哭たまふ。曹操が自く青兎の都ぢうたるある。汝は朝廷とどくあく。官人とあさく。因の在ふとすりあがへ。又害せうすゆもあらん。すとやうと行へと促しりまへ。劉琮為方あく。蔡夫人と澄と住馴くる。國父とあれ。青兎へとと止らる。ひりう變り果て。相伴人もあく。たゞ向き大將は王威とりゆきのをうり。從ひる。曹操ひちよ千禁とよび。汝五百余騎と劉琮と追蒐途と一人もあまさむと斬弃く。後の患と絶べとひひりまへ。于禁羨む。

ア。鎧とぬであげうけ馬ととがへく追蒐交ちうくあづき。巫相の命と受汝ホと謀をとよぞうり。兵を下知して討くされを。蔡夫人劉琮といふて設号が主の行末を見届けられ。力く一人あこがへ来る。王威力とびだく。近寄敵と走蒐り大とちむ。そ戦ひる。卒ニ大勢と聞きて討死ノ至。劉琮が一類。一人ものあらず亡おさまくる。運の末こそ哀れ。

長坂坡趙雲救幼主

荆歎事あく手よへりまへ曹操深く孔明を悪んじ。隆中へ人を遣し。孔明の妻子とどうへんと。あぬ縁く。搜し尋ねませまご。孔明元來三江の中よ慮り置こまび。あいづく回り。曹操作ひやく怒を含み。玄徳逃去と二千日あずまひび。荆



及と治り。曰く。過るもの跡と
異き路也。江陵城の荆及第一の要害。金銀兵糧乃
用意澤山あり。玄德も。この城は龍ある。あつて蓋へ
うす。あよと早く追ひぬぞ。曹操奮然と曰く。敵を全
殺す。必ずさる。且つ軍事をきえよ。而て是を居らう。之を先用意せ
よと。詔大將であれも。文聘一人いまして。遣へ
て召し。且つ生見や曹操問へ。曰く。汝あよと遅參あ
る。文聘が曰く。某されよ。劉表を輔へ。國家を安んじるとあ
なむ。劉表をもよ逃去をとり。よふ常と藻川を守り境を
めぐ。生く孤弱よしむを。死く黄泉の下よ。愧るなりある
人。とぞひよ計遂よとげを。已ゆて得をしとぞなり。真

と哀を愧きあり。あんの面目ありて。人す先もと出べきと
涙とあがれのひり。曹操そのもて感ト。眞と忠臣ありと。
江夏の太守閑内侯。又封じ。兵と付く。案内者。し。又問
てやる。玄徳落去。途いもどう行ん。あるやのあくと答
て曰く。其業も。又。玄徳ハ十万もよまくる。百姓とあくとへ
一日。又。四十里もすうの路と行く。志うとたひ三百里もとへ
うち。曹操をあいち大勢の中す。精兵五千とえうべ。生
一百一夜の内。又。玄徳。又。追付べ。大軍。後。またくみ
来。五千の兵。又。好馬。えうく。實よき鎧。うき。孫よ。文
聘。案内者。あき。ば。また。馬と乘じ。途と教よ。怠る
もの。首と刎へ。う。馬と生せば。五千の鉄騎との

勢ひきおへ風火かうかのどく様ひよと様ひよ追お益ます。此のとぞ玄德げんとう、十萬余よ百姓せいしと引具ひきぐ。江陵城えりやまへと志し。三千余騎よの兵ひを率そつして趙雲さやか、妻さい子こをよわうせ。張飛ぱうひと後陣ごちんとしと落おちゆみ。孔明こうめいが曰いく。また閨羽くわいはと江夏こうかへ遣おとす。また音信おんしんあたへいある。玄德げんとうの曰いく。軍師ぐんし孫そんがくまを行ゆく。救きゆと靖じやくめ。劉琦りゅうきまた軍師ぐんしの教くわいす。繼母けいぼ乃難あはれと逃のがす。軍師ぐんし行ゆく。あうを兵ひと起おこす。孔明こうめいすとも辭させ。劉封りゅうほうと五百の兵ひと引具ひきぐ。江夏こうかとさしてそれとく。その日玄德げんとうハ簡雍かんよう、糜竺みゆき、糜芳みよともあふ。馬をもやゆ。忽よち一陣いちじんの狂馬きょうばの前まへ吹ふき起おこり。塵埃じんあい天あまと掩おおひ。日の光ひのひと人ひととありて。いづくともあく喚さけ号ごうが声こゑ。

遙とお々とおききえり。玄德大げんとうは騒さわきゆ。簡雍かんようとすう。陰陽いんようもあつてあり。且そぞは袖そでの中うちと占うらす。大内だいないの兆あい。此應あい今いま又また。君きみと百姓せいしと打う奔は。途とがいそひで逃のがす。玄德げんとうの曰いく。是これ新野しんやよ。もろびと率ひきひきなり。ひきだら棄きる。志おものびおも。簡雍かんよう曰いく。君きみと見みんみと棄き。禍わざわざあふす遠とおう。前まへある山さんいいある石いしと尋たずねね。一人ひとりと入いて曰いく。前まへ當陽縣とうようけん山さんの名なと景山けいざんと。玄德げんとうとあち山あちざんの林麋りんび。而ひて取とり。秋あきの末すゑ。涼風骨さむかぜ。徹とおり。日ひとと夜よとと昏まとと。哭号こゑ。野のとと死し。夜よと四更よごの比ひ。よんよんで。俄いのち。西北せいほくの方がたす。喊ときの声こゑ地ぢと動うごして來く。玄德驚おどろいて。そぞ馬まと打う乗の。二千余騎よと列�む。ひゆ。曹操そうばく精兵せいへいと駆くそく掩殺えんざつ。その

勢ひあるべからむ。玄德命ととく攻戰ひとて危く見へ
る在る忽ち一鹿の軍馬一條の血路を切開ひ。玄徳伏
きくひ生とあとはあいち張飛あり。一手又兵とあわせ東をき
りと落す。江南の方々一族の勢あり。長坂坡を殺到す。
真先々進む。荆刀の大將文聘あり。玄徳あはれて君
と背だ國で賣の賊大丈夫の所為。あうがとて呼うめ入。文
聘あつてるとあへ去る。又後より許褚。丘と並び追
来る。張飛力と振そよぎと拒ぎ。大敵と切散し。東ときて
走り下り。喊の声やうやく遠あり。玄徳息とも盤もぎ
走りゆへ。馬下りて。味方を申す。百余騎も
討あさす。妻子老少麻糬。麻糬趙雲。簡雍と始として。そ

の外の大将とぐれ。行方あはてあひゆ。玄徳も戦とのぞみ渡
とあが。右大勢の百姓も。慕ひ。浩大難。あ
ふ妻子徒類も。入ひあくあらそてたり。たゞ上本とおれば
くち人あり。あどうを哀よざん。声をあはせ
治ゆ。あがくあく。糜芳面立。矢とも抜き。玄徳
前よひぎまばゆ。趙雲ふたり。曹操。曹
操。張飛。赤曰く。うき味方の力。益勢ひ迫りた。そとそ。曹操
よ。信ト。ひざる。玄徳の曰く。趙雲患難の中。相伴
ひ志の堅。金鉄のと。あんぞ富貴とん。掛く。まき

反をあらん。糜芳曰く。誠へども。趙雲が曹操の方へ行と見え
たり。玄徳の曰く。趙雲定め。故あらん。再びひよきのへ斬て
をいへ。張飛が曰く。某も行ふ。行く趙雲と尋ね事実あ
が一鎗。刺殺さん。玄徳の曰く。汝誤て疑ひ。あまし
関羽が頗良。文醜。謀せ。よし。趙雲うあらば。よし。
棄ト。よし。彼が去。任を。相逼へ。うを。趙雲うあらば。よし。
棄ト。いひのへど。張飛卒。みきうを。おれう。二千騎。あまし。伐
あらう。長坂橋。行。橋の東。木深き林。あり。まよそ
究竟の事。よと喜んで。ひとの計。思案。木の枝。切て
千人の騎。くる馬の尾。結付。林の陰。性。来。そ。大勢ある。
体。よし。張飛のぞと見。曰く。まの二十騎。うちも五百余騎。

又當。一と。獨笑。て。た。一人橋の上。馬。立。予。と。まよそ。西。
のぞん。待居。す。趙雲。夜の四更。曹操作。大軍。寄。來。大
山の卒。が。とく。あ。り。命。と。棄。て。戦。ひ。大勢。と。破。か。て
玄徳。と。さ。せ。ど。卒。あ。わ。と。殊。よ。も。の。う。玄徳の夫人。老
少。ぞ。う。あ。く。行。方。と。あ。ぎ。う。と。と。と。君の
眷属。二十余人。別。と。甘夫人。糜夫人。幼主。阿斗。三人。あ。今
夜の合戦。行方。と。見失。ひ。あ。ん。の。面。目。あ。く。と。再。び。君。と。見。ふ。
あ。し。命。の。あ。う。ん。が。う。の。敵。と。戦。ひ。平生。知遇。の。因。と。報。せ。ん。
と。と。三十騎。あ。う。た。兵。と。あ。た。と。取。そ。回。と。敵。の。村。雲。立
た。真中。と。兎。入。四方。八面。と。討。破。り。弛。廻。て。尋。ね。よ。と。
の。百姓。と。もの。号。泣。の。声。天。と。震。ひ。地。と。動。と。矢。と。中。り。石。と。打

趙雲幼主と
祐ひた人
諫ひ



まつた。やのども子、親よ離き。女ひ男て棄て。傷て紫り。血を帶
く逃走るやのね。あらず。血をあがまと溝のじと。屍へ積み。兵の
ビ。趙雲馬を打て走りくる。ざらうある草の中。廻ま一伏。
たまゆあり。近づくあまことうやまを。あち。簡雍あり。きく
なをり起し。といふ夫人。見えぬぞと問。ハ簡雍が曰く。ます
き。敵の寄るをそぞ。一同よ逃げ。二夫人。車を棄。阿斗
と抱く走り入り。まきホへ駆て飛と。山の坡とぞ。伏り。敵
將一人追駆。一鎧よ突落ト。馬を奪く。引逐せ。まのめ人。此
のビ。とりへり。まく。趙雲馬。ようきのせ。手下の士卒。付く。遂
ら。まく。天より。地より。二夫人。阿斗の行先。たゞ。ゆ
る。尋ねるを。沙場よ屍をさうまで。とひをと。又長

坂坡よみ。手の兵声。あげ。趙將軍。呼。趙雲
馬を。どう。あよ。のぞと問。まく。あ車。推士卒。あ
が。夫瘡。やく。ひり。起り。あ。ぎと答。趙雲。曰く。夫人。行
赤を。まく。も答。曰く。夫人。髪。足を。跣足。と百姓。よ
まく。南。ひく。走り入り。趙雲。を。あ。ち。馬。飛。し。南。よ
ひく。馳。北。向。一鎧。百姓。男女。殺。而。打。泥。而。逃。走
る。趙雲。大音。その中。夫人。御。在。ま。さ。ね。と。呼。ア。キ。甘
夫人。趙雲。ぞ。見。声。と。あ。の。泣。す。趙雲。馬。す。乘。下。鎧
と。服。よ。さ。と。さ。三。沿。る。難儀。と。せ。む。と。あ。ま。其。う。罪。く
べ。ふ。と。あと。あ。と。お。と。問。甘。夫人。の。曰。く。ま。き。糜。夫人
と。よ。敵。追。車。と。百姓。交。逃。る。が。又。手。の

敵々荒叢さま。糜夫人阿夫トも又行方を失ひ。たゞ是
ひとり命を助り。来たりと爲りゆべから百姓どもさへ起る。
一手の敵又寄来る。趙雲駆ひて。ナミをとどまつて真先を生東
と馬上に鄒付たり。よしと云ひ。生東の麻林壁あり。その跡
人の大將手よ力と筋よがで。千余騎の兵を率ひて。あまき
あまき曹仁が手下の厚干道をとつて猛将あり。糜竺を生東。
手柄ともうひととそぞりりて。趙雲鎗をひねりて突ぐ
うり。一鎗を突死。雜卒原を討散して。糜竺を扶け。敵の
馬を奪て。甘夫人をのせ。路をひくと長坂坡に到り。竺と張飛
橋の上に馬を立て。矛を横へ。大音あげて曰く。趙雲あよと曹
操と降まる。趙雲が曰く。ヨリ夫人を尋ぬとども。あんざむ

ヘキ敵々降りて。張飛が曰く。さたよ簡雍が來りて。ヨリ
せきんを。ヨリと銀の御刃と殺さ人趙雲が曰く。君の何々在
まごと張飛曰く。前面ある。遠うと趙雲が曰く。糜竺は甘夫
人と守護して。ヨリ入りゆ。ヨリと。又とて返り。糜夫人阿夫
の行末と見届んどく。討残さまとて。兵五六騎と引具とく。又
敵々池向ふ。ある。ある。金大將とく。手よ長き鎗と持替
劍と負く。十余騎をあて。馬を躍らき。近付たり。趙雲鬼
角の問答よし及び。真地暗と討て。蒐りたゞ一鎗を突く落
り。宝劍をあて。卒とぐれを逃散。あの丈将へ。曹操が隨身
天とて秘藏の宝劍二振。元來曹操青釣筒
天とて秘藏の宝劍二振。倚天の劍へ常よ。行くを帶に青

金の劍ハ夏侯恩ニ帶せり。倚天の劍ハ威ニ鎮め青釭の
劍ハ入ニ歟。鉄ニ切リ此ニ割がビト。夏侯恩ナムニ帶
ミキテ敵をもろニアリ。ソノ一鎗ニ穴死
さきナリ。趙雲うの劍セヨロク。靶の上ニ金と巒と青釭
二字あり。さくハ宝劍アラムトシヤマス。三列ナムニ帶ルミ
又後ナリ敵の勢取用。趙雲馬セ回ル。口吃と云ふ。曹
操が大軍野ニ漏。山ニ漫ニ。八面ときばく色ミ百姓セ斬ル
ユ延破り。川ニ止く味方の兵セ散る。志ニアヒヌ射ミセテ亡
蒙る。又一陣と討破り。走りノミバ益々射セテ只一騎アリ
ミ。退く。半點もあく。夫人阿母セムシウケテ尋ねル

る。一人の百姓教ニ。糜夫人小兒セ抱きあラ左の腿ニ敵セ登
あキアリ。破屋の牆の蔭ニ倒リ伏す。ソノひひとびきくナリ早
行つゝ。百姓家の半焼残リ。糜夫人うの三歳の小兒セい
だの。牆の蔭ニ伏す。趙雲馬ナリ乘下。ま。糜夫人目
見て涙セある。お。將軍ナムヒ。お。おの子の天命頼ナリ。極
ひ。お。父ニ隣。父君世々。流浪。年を度ニ五十。お
みん。お。子と。お。お。外。お。一人。お。將軍。お。お。子。お。扶。お。
お。お。父。お。對。面。セ。お。妻。死。お。又。お。恨。お。お。お。
お。お。趙雲。お。夫。人。浩。お。憂。目。お。お。お。お。お。お。某。お。罪。お。
お。お。早。お。お。馬。お。召。お。某。送。お。お。糜。夫人。お。夫。人。お。將。軍。お。是
お。馬。お。

張郃

趙雲
幼主
守護して
土坑と
出る



趙雲



を惜ひしき身みあらざる。猛ぐる將軍せうぐんあの子こ扶たすけく。亟そつく退しりぞき。
あらず妾せうらわら掛うけりありとの氣き喊けんの声こゑ遠近えんきんにひたれ
早く馬ば召めまわさよとさとしゆる。糜夫人めいふじん小兒こじ趙雲ちょう。手てはわわ
と曰いく。ちの子この天命てんめい將軍せうぐんあり。妾せうらわら掛うけて。兩ふたあづら候まつ
り。あれ趙雲ちょう声こゑあらげ。あよとと早く乗のみ。敵のををよ
かまからず。石井いしゐアリ。びほく。失うく人ひと。趙雲ちょうををきま
あく。牆つきをを引ひき。井いの中なかをを填うめ。又また甲こうの繩ひもをを解ほどく。當あらわす
放あつす。阿牛あたうをを懷いだす。名などよぶとと。應おうす人ひととと。鎗やりをを取く
く馬ば。又また乗のく。早はや敵の大將だいじょう歩立ほだての期とき。近ちかく。取く巻まき
たり。趙雲ちょう牆つき外ほかをを突つす。曹洪そうが手下しもべ晏えん明めいととの大

將三尖せんせん兩叉りょうさいの刀とををやく。真先まへ蒐めぐらりり。趙雲ちょうをを合あふ。突つき
死しし。馬ばをを並ながく通とり。又また死しし。趙雲ちょうをを合あふ。亂まつる。
又また手ての兵ひょう旗きをを真先まへ。喊けんとと。遂ついて舉あげ。趙雲ちょうをを見み
ととらへる。旗きをを河間かわの張邵ちやうとと書か。ととり。あづらへ猶豫ゆうををへき
真地暗まぢのう。討うく。蒐めぐらり。千余合ごよ戦たたかひ。あく。容易やすの敵のあら
ざざとと。又また馬ばをを引ひ返かへして走はり。又また張邵ちやう勝かつ。の内うちで追おき。凡ふ
る趙雲ちょう馬ばをを乘のく。忽つち土坑どをを落おち入いり。張邵ちやう得とり。とと上あり。鎗やりをを取く。下さ突つき。せんととも。忽然ぜんとと。坑くぼのの中なかすす
紅べにの光ひかりををあびき。紫むらさきの霧きりををき。趙雲ちょうが乗のたる馬ば一乘いつ。益ます。一乘いつ。張邵ちやう大おき駆く。重おく追おぎ。又また腰こしをを抱いだる。小こ見み。後うしろ。又また天あま子こととあるべき。洪福こうふくある。すす。あ。趙雲ちょう不思議ふしきの

難を免き馬を乘じて走り去り、向う二手の勢討く蒐
り。後手も二手の勢喊て作合て攻める。前あへ馬延張
嶺後あるべ焦觸張南。よもえ袁绍す。降泰と曹泰と
あこぐれと將あり。趙雲乱軍の中よそ相戦。ひうの青釭の
剣とく射合もどもあらへ盛の真甲す。血を割がくある
ひの肩先す。腰と掛く斬と割く。その鋒よ當る。の
命を失ざる。さも半點の刃と損せど。真よ布代の
宝劍あり。

